

環境保全活動を推進

▶ISO9001 認証

社長室、環境ソリューション部、EM推進部、上下水道部、I・S部、開発営業部、総務部、業務管理部、調査分析センター、知多事業所、碧南事業所、長野営業所、関東営業所、㈱エステム長野で認証取得しています。

▶ISO14001 認証

本社、調査分析センター、保繕工事部、小牧営業所、長久手営業所、長久手事業所、豊田事業所、安城営業所、東海営業所、豊橋営業所、浜松営業所、知多事業所、安城浄水事業所、三重支店、㈱エステム三重で認証取得しています。
※2016年12月にISO14001、ISO9001の2015年版対応を完了しました。

▶ISO55001 認証 (公共下水道処理施設の維持管理業務)

本社 下水道処理施設の維持管理、技術の支援部門 並びに長久手南部事業所及び東海市食品工場廃水処理施設で認証取得しています。ISO55001はアセット(資産)を管理する仕組みをまとめたISO国際規格です。エステムはお客様のアセットをお預かりし、維持管理をしています。ISO55001の仕組みを用いた管理を実施することで、更にお客様に安心と信頼をご提供できるよう活動を続けます。



主な受賞、認定ほか

<p>自動車エコ事業所認定 自動車エコ事業所</p>  <p>2009年12月認定 (愛知県主催)</p>	<p>認定エコ事業所</p>  <p>2003年5月認定 (名古屋市主催)</p>	<p>第44回グッドカンパニー大賞 優秀企業賞</p>  <p>2011年1月受賞 (公益社団法人中小企業研究センター主催)</p>	<p>子育てサポート企業認定 「くるみん認定」</p>  <p>2018年12月更新認定 (厚生労働省主催)</p>
<p>ファミリーフレンドリー 企業登録</p>  <p>2010年8月登録 (愛知県主催)</p>	<p>女性の活躍推進企業認定</p>  <p>2010年3月認定 (名古屋市主催)</p>	<p>名古屋市ワーク・ライフ・バランス 推進企業認定</p>  <p>2017年8月認定 (名古屋市主催)</p>	<p>あいち女性輝き カンパニー認証</p>  <p>2019年4月更新認定 (愛知県主催)</p>



【所在地】

本社	〒457-0821 名古屋市南区弥次工町2-19-1	TEL (052)611-0611 (代) FAX (052)612-9384
調査分析センター	〒457-0821 名古屋市南区弥次工町3-22-1	TEL (052)612-9801 FAX (052)612-7504
東京支店	〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留1-5-7 YOUビル3F	TEL (03)5645-2360 FAX (03)6661-2964
三重支店	〒514-2221 津市高野尾町1897-48	TEL (059)230-0099 FAX (059)230-1902
安城営業所	〒446-0056 安城市三河安城町2-26-1	TEL (0566)74-0422 (代) FAX (0566)76-9558
豊橋営業所	〒440-0842 豊橋市岩屋町字岩屋下96-2	TEL (0532)65-3033 FAX (0532)65-3020
小牧営業所	〒485-0084 小牧市大字入鹿出新田字郷前1169-1	TEL (0568)75-3471 FAX (0568)75-4084
長久手営業所	〒480-1113 長久手市山野田1132 橋ビル1F	TEL (0561)63-2811 FAX (0561)63-2831
浜松営業所	〒433-8117 浜松市中区高丘東5丁目6-8	TEL (053)436-7611 FAX (053)438-3944
関東営業所	〒340-0206 埼玉県久喜市西大輪3-21-4	TEL (0480)59-3877 FAX (0480)59-3887
大阪営業所	〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町3-15-23 フォレスト阿倍野208号	TEL (06)6626-3610 FAX (06)6626-3620
九州営業所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-9-13 第一東福ビル2F	TEL (092)411-9722 FAX (092)411-9750
環境研究所	〒440-0842 豊橋市岩屋町字岩屋下96-2	FAX (0532)65-3020

作成およびお問い合わせ先

株式会社エステム 総務部 TEL:052-611-0611(代) FAX:052-612-9384
URL: <http://www.stem.co.jp/>



※この環境コミュニケーションレポートは、ベジタブルリンクを使用しています。



2020.6.2

2020

Environmental Communication Report

環境コミュニケーション レポート



Stem Co., Ltd. 50th anniversary



ごあいさつ

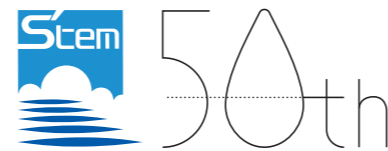
今現在、このごあいさつを書いているのは5月中旬。昨日、新型コロナウイルス対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が39県で解除されたというタイミングです。感染爆発という事態に陥ることなく、なんとか一山乗り切ったという感触ですが、この先第二波が押し寄せる可能性も十分あるでしょう。

初めに中国での感染のニュースが報道された時、ここまでの事態を想像できた人がどれだけいたでしょうか？オリンピックの延期、大規模な外出規制やテレワークの普及など、ほんの3ヶ月前とは私たちの生活もずいぶん変わってしまいました。

エステムの事業は、皆さんの生活に密接し、こういった状況にあってもいつも通りのサービスを提供し続けなければいけない事業です。休業要請をされた事業に関わる方々も当然大変な思いをされているとは思いますが、継続要請をされた事業に関わる方々、何より医療現場で働く方々は、どう事業を、企業を継続させていくかということを真剣に悩み、考え、前線で行動されていると思います。私共も、サービスを途切れさせず皆さんの暮らしの安心を守るために必要なことは何か？について、改めて見直し、未来のための準備を始める貴重な機会になったと感じています。そして自分たちの果たすべき役割、地域における責任の重さについて再認識することができました。

エステムは今年創業50周年を迎えました。これまでお世話になった全ての方々に感謝の想いをお伝えする方法をいくつか考えていましたが、第30回を迎えるはずだった「環境フォーラム」をはじめ、全てを延期しています。コロナ禍が落ち着き、多少は晴々とした気持ちで皆さんとお会いできるようになった時には、少し遅れた50周年の感謝の気持ちを笑顔でお伝えできればと思います。これからも、エステムグループをよろしくお願ひいたします。

なお、本レポートに関するご意見、ご感想がありましたら、当社スタッフまで頂ければ幸いです。



Stem Co., Ltd. 50th anniversary

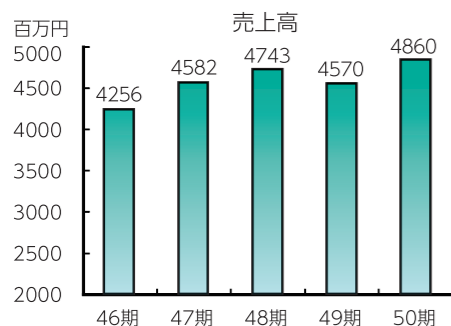
株式会社エステム
代表取締役社長

塩崎 敦子

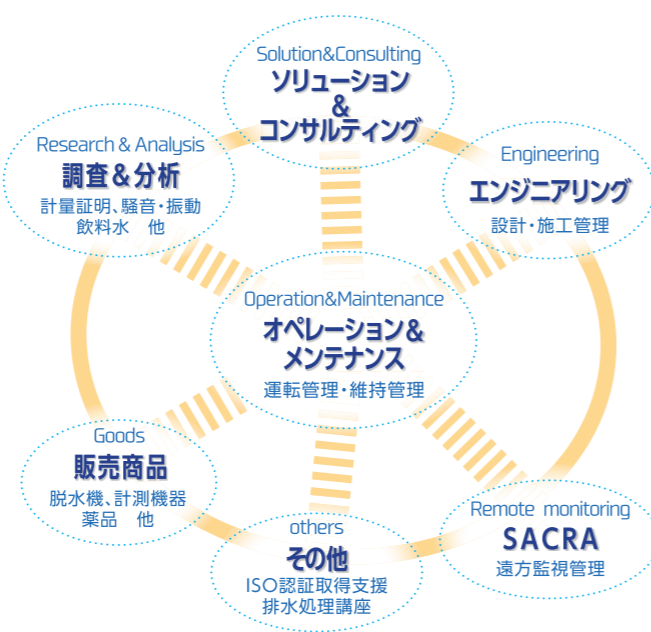


会社概要

商号	株式会社 エステム
本社所在地	〒457-0821 名古屋市南区弥次工町 2丁目19番地の1 TEL:052-611-0611 (代) FAX:052-612-9384
設立	昭和45年(1970年)7月
資本金	7,000万円
従業員数	460名 ※2020年4月現在
代表者	塩崎 敦子
グループ会社	(株)アイ・メッツ (株)エステム三重 (株)エステム長野 (株)日新技術コンサルタント



<エステムの環境技術>



エステムのコア事業はオペレーション&メンテナンス(環境施設の運転管理、維持管理)です。

「エステムに依頼すれば何事も必ず満たしてくれる」とご満足いただけるような真のお客様第一主義を徹底するために、長年培った技術力と経験、知恵と想像力を基に、日本のサービスを提供することがエステムの基本です。

経営理念

株式会社エステムは水を中心とする環境文化と、安全で快適な自然環境の創造を通じて社会に貢献します。

環境・品質方針

エステムグループは水を中心とした環境保全事業を推し進めます。正確さ、誠実さをモットーに「安心」と「信頼」を提供し、「お客様第一主義の徹底」、「自然環境と生活環境の保全」を実行することを基本理念とします。

- 基本理念を実現するために、次の項目を重点項目とし、環境・品質目標を各部門で設定して活動します。
 - 納期を厳守し、お客様のお求めになるサービス・製品を提供
 - 事業活動に伴う省資源・省エネルギーの推進
 - 改善提案力および問題・課題解決力の向上
 - 環境整備を推進
 - 環境問題の啓発活動・ボランティア活動を推進
- お客様要求事項、関連する法規制およびその他要求事項を順守します。
- お客様満足度を向上させるために、環境・品質マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 環境負荷低減を図り、環境汚染の予防・環境保護を推進し、生物多様性に配慮した事業活動を行います。
- 本方針は必要に応じて見直しを行います。また全社員に周知するとともに、関連会社および社会に公開します。



この1年間で日本でも「SDGs」という言葉をよく聞くようになった気がします。昨年の冒頭ごあいさつで「日本でのSDGsの認知度は19%」と書いていたのですが、今年はどうなっているんだろう？と思い、少し調べてみました。

私が昨年引用した調査結果がどういう数値だったのかは分からないのですが、今年は世界経済フォーラムが実施した認知度調査を見てみました。28ヶ国、16歳から74歳までの約2万人、日本では約1,000人が調査対象となったようです。

SDGsを少しでも聞いたことがあるという人は世界平均74%に対して、日本では49%と28ヶ国の最下位。よく知っているという人は8%で、こちらは唯一の一桁で最下位でした。この結果を見ると日本は世界標準に比べ、圧倒的に意識が低いことが分かります。

エステムは環境保全に取り組む会社なので、どうしてもSDGsの環境に関わる目標が目がいぎます。皆さんの中でも、SDGsは環境問題という印象を持たれている方もいらっしゃるかもしれません。

私は昨年SDGsを学びに欧州に視察に行き、そこで「SDGsのほとんどの目標は人権問題だ」ということを学びました。全ての人が、安全で快適な生活を送り、教育、職業等を選択する自由を持ち、文化的で豊かな人生を得るためにどうすればいいか？を掘り下げて、細分化して、もう一度まとめていったものがSDGsの17の目標です。誰かのための他人の目標ではなくて、自分自身のためでもある達成すべき目標なのだということを深く認識し、その精神を忘れず、今後の事業活動にも活かしていきたいと考えています。

代表取締役社長 塩崎敦子





〈 第50期環境管理計画（2018年10月～2019年9月）主な目標と実績 〉

方針	50期目的・目標	50期実績と今後の課題	全社/ 各部署
1. 環境関連法規則等の遵守			
法令、条例、協定などを遵守し、地域の配慮事項を尊重します	法令、条例について違反はしていません。また訴訟はありません。		全社

2. 環境負荷の低減活動を推進

省資源・省エネルギー化を推進します	自動車適正走行により燃費 14.7km/L	全車平均の燃費は 14.7km/L でした。48期から「e燃費」のサイトの実燃費データを参考に、目標燃費を 14.8km/L と決めました。この目標を達成できるよう、エコ運転を心がけるようにしていきます。	全社
	低排出ガス車を導入	ハイブリッド車の保有台数は 18 台です。50期の新規導入はありませんでした。	全社
	電気料金削減	①従来本社ビル内にあった調査分析センターが 2017 年 1 月から新社屋に移転し、稼働しました。これを機に電気使用量を本社ビル単独から、営業所(8か所)も含めた合算で算出することとしました。48期を基準とします。 ②調査分析センターで、エネルギー量の把握と合わせて省エネ活動を行いました。 ③毎週水曜日をノー残業デイとし、仕事の効率化を呼びかけています。	本社
廃棄物の削減、リサイクルを推進します	廃棄物を 100% 分別	本社では 3R ステーション（5 分別）を設置し、100% 分別実施しています。各営業所でも分別を推進しています。	本社 各部署
	紙の 100% 分別・リサイクル	古紙回収システムを確立し、100% 分別、リサイクルをしています。	本社

3. 啓発活動・ボランティア活動を推進

社員一人ひとりが環境問題に対する関心と知識を深め、啓発活動・ボランティア活動を推進します	エコ・ルール推進	月 1 回エコ・ルールのチェックを実施しています。	全社
	中国・内蒙古自治区における植林	参加を希望する社員がいなかったため、参加を見合わせました。	全社
	鳳来寺つげ野の森育林活動	5 月 18 日～19 日に 50 名のグループ社員が参加しました。	全社
	木曽福島の水源の森林づくり活動	9 月 7 日～8 日に実施予定でしたが、豚コレラの影響で中止になりました。	全社
	清掃ボランティア実施	本社周辺：毎週火曜日の朝礼後に実施しています。	本社
		地域清掃：名古屋市南区、長久手市（毎年 2 回～毎月 1 回実施しています）	本社
		各地区： 明治用水土地改良区：川と海のクリーン大作戦 2018 年 11 月 10 日 4 人参加 清掃 小牧市民祭り：2018 年 10 月 20 日 7 人参加 清掃 長久手市：530 運動 2019 年 5 月 26 日 12 人参加 豊橋市：530 運動 2019 年 6 月 19 日 8 人参加 三重県：町屋海岸清掃 2019 年 3 月 17 日 7 人参加 愛知県：安城市内一斉清掃ボランティア 参加見合わせ	各部署
環境フォーラム開催	2019 年 6 月 4 日に第 29 回環境フォーラム、6 月 22 日に事後勉強会を開催しました。	全社	

4. 環境保全活動を推進

環境保全活動、環境管理システムの継続的改善、向上に努めます	ISO14001 認証	本社、調査分析センター、保繕工事業部、小牧営業所、長久手営業所、長久手事業所、豊田事業所、安城営業所、東海営業所、豊橋営業所、浜松営業所、知多事業所、安城浄水事業所、三重支店、(株)エステム三重で認証取得しています。	全社
-------------------------------	-------------	--	----

5. 環境・品質方針の周知徹底と情報公開

環境・品質方針を全社員に周知するとともに、関連会社および社会に公開します	内定者への教育、購買先、協力会社へ環境・品質方針の周知	内定者を対象に入社前通信教育を実施したほか、購買先、協力会社への環境・品質方針の送付も行いました。	全社
	環境・品質方針を社会に公開	ホームページ上で公開しています。	全社

〈 環境負荷低減活動推進 〉



燃費

(対象：全社)

全車平均の燃費は 14.7km/L でした。48 期から「e燃費※」のサイトの実燃費データを参考に、目標燃費を 14.8km/L と決めました。この目標を達成できるよう、エコ運転を心がけるようにしていきます。並行してハイブリッド車の導入も進めていきます。

※e燃費 URL <https://e-nenpi.com/>

電気料金

(対象：本社及び8営業所)

- 従来本社ビル内にあった調査分析センターが 2017 年 1 月から新社屋に移転し、稼働しました。これを機に電気使用量を本社ビル単独から、営業所(8ヶ所)も合算で算出することとしました。48期を基準年といたします。
- 調査分析センターで、エネルギー量の把握と合わせて省エネ活動を行いました。
- 毎週水曜日をノー残業デイとし、仕事の効率化を呼びかけています。

	48期	50期
電気使用量合計 (kWh)	506,609	454,295
金額合計 (円)	11,457,815	11,054,474
CO ₂ 排出量 (t)	262.4	249.8

太陽光発電

(対象：本社、調査分析センター)

2008 年 10 月 1 日から本社ビル屋上に太陽光発電システムを設置、稼働しています。また 2017 年 1 月からは新社屋に移転した調査分析センターの屋上にも太陽光発電システムを設置、稼働しています。

廃棄物の 100% 分別実施

(対象：本社)

50 期の実績は以下の通りです。100% 分別しています。

	46期	47期	48期	49期	50期
金属屑	378.1	447.9	341.1	316.0	289.0
金属付廃プラ	545.5	651.0	524.5	358.0	493.9
廃プラ廃ゴム	1134.3	1106.0	1671.3	1538.1	1389.7
紙・木繊維屑	111.0	118.7	268.4	158.8	280.4
ガラス屑陶磁器屑	204.2	107.2	117.8	139.4	176.5
廃油	310.5	260.4	259.6	371.7	272.9
計	2,683.6	2,691.2	3,182.7	2,882.0	2,902.4

(単位：kg)

コラム

初級技術研修



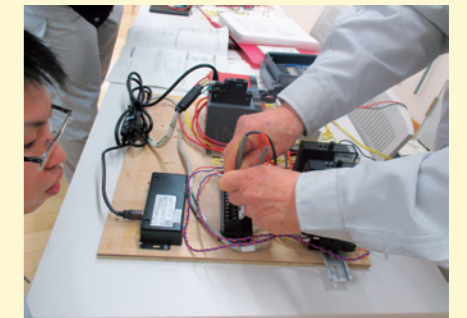
講師も楽しく、生徒も楽しい。
そういう初級技術研修を作りたい。

エステムでは 2004 年から、新入社員（新任社員）を対象にした技術研修を続けています。現場で最低限必要な項目（技術・原理原則）を体系的に学ぶことで、『知識・技術の標準化』を図ること、実務における『考え方・論理的思考』を身につけ、お客様へのサービス向上を目的としています。

具体的には、「法律」「水処理」「機械」「電気」のテーマ毎に、月一回、一年間にわたって学びます。また、実際の排水処理現場を回る「現場見学」、リレーシーケンスの組立をする実技研修、チームに分かれて処理場の設計をする「総合演習」もあります。

講師は全員、エステムの現役社員。
最近では入社 4～5 年目の若手社員も講師に挑戦しています。

単に技術を教えるだけでなく、「水処理の面白さ」「仕事の楽しみ方」も共有することで、社員が楽しく仕事ができるための「気づき」を与えたい、という気持ちで、日々改善に取り組んでいます。





〈 ボランティア活動推進 〉



中国・内蒙古自治区における沙漠緑化活動

1996年より愛知大学ポプラの森「緑の協力隊」として、中国内蒙古自治区クブチ沙漠(恩格貝)での緑化活動に社員を派遣しています。2019年度は参加希望者がおらず、残念ながら参加を見送ることとなりましたが、24年間の活動を改めて振り返ります。

行ってみないとわからない! 沙漠のすがた!

緑化作業では、長さ1mほどのスコップで、直径30~40cm×深さ100~120cmの穴を掘ります。掘り進むほど砂は湿気を帯びてきて、地下水脈が生きていること、もとは豊かな草原地帯だったことを実感します。実際に体験してみると、想像以上に大変な作業です。「掘っても掘っても乾いた砂がサラサラ流れ込み、やっと一つめの穴を掘り終えたときはこれを1日続けるのかと目眩がしそうでした」という感想も。「はるか前方が暗くなったかと思うと瞬間に砂嵐にのみ込まれ、じっとしているしかなかった。自然の厳しさを感じました」と、話す参加者もいます。また、「流れ星がたくさん降っていて、人間が宇宙に飛ばした衛星までも肉眼で見ることができると驚き。タイムスリップしたような感覚に衝撃を受け、地球本来の姿を見た思いがしました」と、感動の声も尽きることがありません。

「やればできる。やらなければならない。」 沙漠の緑化活動から学ぶ



北京から列車とバスを乗り継いで、まず驚いたことは、沙漠に緑がいっぱいあったこと。沙漠の中でオアシスのように輝く恩格貝の景色は、人間一人の力は小さくても積み重なれば大きな力になると物語っています。緑化活動に力を尽くされた故遠山正瑛鳥取大学名誉教授(日本沙漠緑化実践協会初代会長)の信念は「やればできる。やらなければならない」。苗木をヤギに食べつくされ、現地の方に誤解されても、ただひたすら実践してこられました。「クブチ沙漠での活動に参加してから、何事も行動に移さないと何も始まらない、「まあ、いいや」と思わずに、まずは何かしようと思うようになりました」。(社員感想)

これからも一緒にポプラを植えに行こう

「スポットで参加してもできることなんて限られてるでしょ」「中国はもう経済大国だし、日本からボランティアに行く意味あるの?」「ポプラじゃない他の木を植えたほうがいいんじゃない?」「結局、自己満足でしょ?」…色んな考え、色んな疑問があると思います。

参加経験者として言えることは、「その場所に行って砂を踏みしめて、風に吹かれて、人に接して、初めて分かることが必ずある。ぜひ、このチャンスに五感で感じてほしい!」

沙漠緑化の「今」に、エステムはこれからも続けて共にします。



なぜ沙漠化したのか?・なぜポプラなのか?

この地域はもともと地下水が豊富な、豊かな草原地帯でした。このため、現地の人々はヤギやヒツジの放牧を生活の糧としてきました。しかしカシミアヤギの品種改良や需要の高まりにより、過放牧の状態となりました。ヤギは根まで掘り返して食べる習性があります。過放牧の状態では草の成長が追いつかず、急速に沙漠化が進みました(このカシミアの多くは日本に輸出されています)。同時に、この地域は非常に強い風が吹き、砂丘自体が動き出す現象(流動砂丘)が起こります。この流動砂丘により、残された僅かな草地、家すらも砂に埋もれ、人々は土地を離れることを余儀なくされました。ポプラが選ばれたのは、まずは砂の移動を食い止めるため。ヤギの囲いを作って無秩序な放牧を防ぎ、ポプラで風を遮って流動砂丘を抑え、本来の植生を回復するため。生長が早く、暑さ寒さ乾燥にも強いポプラが選ばれたのです。

国内での植林活動



5月18日、19日の2日間、鳳来寺つげ野の森育林活動に、総勢50名のエステムグループ社員が参加しました。9月7日、8日に予定されていた木曾福島の育林活動は、豚コレラの影響で残念ながら中止になりました。

鳳来つげ野植林に参加して 豊橋営業所 鍵山 輝成

山での植樹はしたいと思っても個人ではなかなか出来ないため、参加しました。風に揺れる葉っぱや川の音は、どんなBGMよりも心地よいです。

1日目は、拠点となった旧門谷小学校に集まるや否や、BBQが始まりました。他部署の方たちと交流できたり、新しく知る一面があったりして楽しかったです。2日目はNPO森林真剣隊の方を先導に前回植樹した場所の間伐ともみじの植樹をしました。ポイントは2つ。植樹の間隔は4mほどにして成長したときにぶつからないようにすること。植穴は深く掘らず、土の

中にある石を取り除くことです。石は発熱して根を枯らしたり、成長の妨げになるそうです。令和元年の記念すべき1本になりました。昼には大きな麩を使ったお吸い物やチラン寿司を作っていただきました。美味しかったです。

私たちが自然と接する頻度は減少傾向にあります。親世代が自然体験したことがなければ、子供が関心を抱くことは難しいでしょう。今回は、親子で参加されている方が想像以上に多く、教育に与える影響は大きいと感じます。このような活動に参加する人が、もっと増えると嬉しいですね。



三河湾チャリティー100km歩け歩け大会への参加



「100km歩く中でいかに多くの感動・感激・感謝を味わうことができるか」がテーマのこの大会は、エステムのお客様でもある七福醸造(株)様が主催されています。今年は3名の社員が参加しました(大会全体の参加者は1366名、完歩者は933名でした)。

100km歩け歩け大会に参加して 設計工事課 山田 慎吾

昨年10月で36歳、年男という節目の年でもありましたので、自身の体力、気合、根性を再確認するという意味で参加しました。はっきり言ってただの勢いとノリです(笑)。

最初のうちは、一緒に参加した同期の渡邊さんとしゃべりながらでしたが、スタートして30kmを過ぎると、二人とも足に痛みが出始め、会話もなくなっていきました。ゴールできるのかと不安がよぎりましたが、45km地点で気休めと思って用意して

いた痛み止めを飲むと嘘のように痛みが消え、希望が見えてきました。またコース途中では知人が応援に駆けつけてくれたり、地元の方の応援、大会スタッフのサポートを受け、多くの人に支えられている実感が湧き、非常に嬉しかったです。その後なんとか完歩することができました!ただし痛み止めでドーピングしていた反動は大きく、大会終了後1週間は足を引きずり、元の状態に戻るのに3週間かかりました。



地域清掃ボランティア実施

(対象:本社、各営業所、事業所)

- 本社 1990年、ある社員の「一緒に道路に落ちているゴミを拾いませんか?」の一言から始まった活動です。毎週火曜日の朝礼後に本社周辺のゴミ拾いをしています。
- 安城浄水事業所、豊田事業所 2018年11月10日: 川と海のクリーン大作戦 4人
- 小牧営業所 2018年10月20日: 小牧市民まつり 清掃ボランティア7人参加
- 長久手営業所・事業所 2019年 5月26日: 長久手市530運動 12人参加
- 豊橋営業所 2019年 6月19日: 豊橋市530運動 8人参加
- エステム三重 2019年 3月17日: 町屋海岸清掃 7人参加

チャリティーカレンダー展への カレンダー寄付

(対象:全社)

年末年始にはお客様や協力会社から頂いて余ってしまったカレンダーや手帳類を広島ケナフの会主催のチャリティーカレンダー展へ送付しています。全国から善意で寄せられたカレンダーや手帳は1点100円で販売され、その収益金があしなが育英会に寄付されたほか、全国の被災地にある仮設住宅や福祉施設等にも寄贈されました。

古切手、プリペイドカード回収

(対象:本社)

古切手や使用済みプリペイドカードを集め、財団法人ジョイセフに届けています。これらは資金化され、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの母子保健、寄生虫予防、栄養改善等の生活改善運動に活用されています。捨ててしまえば廃棄物ですが、生活の中のひと手間できるとボランティアです。



特集 環境フォーラム年表

経営理念に謳う「環境文化」の発信、「社会貢献」の場として、エステムでは1991年から30年に亘り、毎年『環境フォーラム』を開催しています。環境月間である6月に、各分野で活躍される専門家をお招きし、私たちの未来と環境について考える機会を皆様にご提供しております。

年度	回	メインテーマ / 講演テーマ / 講師	※講師の肩書は開催当時のものです。
1991	第1回	地球史から見た環境問題	沓掛 俊夫 氏 (愛知大学 教授)
1992	第2回	最近の水環境とその対策	大森 英昭 氏 (日本環境整備教育センター 調査研究部 部長)
1993	第3回	地球環境の現状と水問題	和田 武 氏 (愛知大学 教授)
1994	第4回	水環境保全—考え方と進め方	桜井 善雄 氏 (応用生態学研究所 所長)
1995	第5回	食飼料の増大と我が国の環境	袴田 共之 氏 (農林水産省農業環境技術研究所 地球環境研究チーム長)
1996	第6回	伊勢湾・三河湾の環境保全と回復	(パネルディスカッション) 松川 康夫 氏 (水産庁中央水産研究所)、原田 良誠 氏 (技術士、元 浜松市下水道施設課) 塩谷 征一 氏 (豊田市下水道管理課 課長)、酒井 克彦 氏 (中日新聞本社編集局生活部 部長)
1997	第7回	海・川・湖沼の復活と生活排水問題	富栄養化した湖沼の環境修復 —諏訪湖を例にして— 沖野 外輝夫 氏 (信州大学 教授) 水惑星「地球」環境倫理・未来への責任 小川 真理子 氏 (三重大学 教授)
1998	第8回	地球環境問題から見た閉鎖性水域の環境	閉鎖性水域の環境保全 中西 弘 氏 (大阪工業大学 教授) 閉鎖性水域の環境保全と法制度のあり方 阿部 泰隆 氏 (神戸大学 教授)
1999	第9回	循環型社会と水処理	ゼロエミッションを目指した生産プロセスと最適排水処理 藤江 孝一 氏 (豊橋技術科学大学 教授) 環境未来都市ハウステンボスと水環境 松尾 要 氏 (ハウステンボス技術センター)
2000	第10回	私たちの生活と水環境	子供のための水辺ビオトープづくり 千賀 祐太郎 氏 (東京農工大学 教授) 水環境 —つながりの中で— 長谷川 明子 氏 (ビオトープを考える会 会長)
2001	第11回	「環境の世紀」—これからの暮らしと社会を考える—	「環境コスト」は誰が負担すべきか? —税財政のグリーン改革の視点から— 寺西 俊一 氏 (一橋大学大学院経済学研究科 教授) これからの環境問題 —環境先進国ドイツ・デンマークの暮らしを見て— 飯尾 歩 氏 (中日新聞 ジャーナリスト)
2002	第12回	「環境の世紀」—広がる、未来への企業の取り組み—	企業のあり方と環境 吉岡 庸光 氏 (静岡経営大学 教授) 環境経営と取組事例 安藤 徳 氏 (ワシントンホテル株式会社)
2003	第13回	「循環型社会の実現を目指して」～企業の取り組みに学ぶ～	トヨタの環境経営 小島 文毅 氏 (トヨタ自動車株式会社環境部 担当部長) 循環型社会の実現をめざして (パネルディスカッション) 西本 テツオ 氏 (愛知環境カウンセラー協会 事務局長)、間瀬 美鶴子 氏 (株式会社トーマツ環境品質研究所 名古屋支店長) 磯谷 善一 氏 (中部電力株式会社 四日市火力発電所 副所長)
2004	第14回	「環境意識の向上をめざして」～ひとりひとりができること～	お得な楽々エコライフ 富永 秀一 氏 (インターネットeco放送局otomi. Tv代表) 本当のエコライフ (パネルディスカッション) 土井 明弘 氏 (編集プロダクション 株式会社エディット)、庄司 知教 氏 (NPO 中部リサイクル運動市民の会 企画開発室)
2005	第15回	「企業の社会的責任」～CSRを環境側面から考える～	CSRの本質の意味～CSRと地球環境問題の関係～ 村田 佳壽子 氏 (日本環境ジャーナリストの会 理事) 東邦ガスの環境への取り組み 磯村 隆英 氏 (東邦ガス株式会社 環境部 環境推進 G 係長)
2006	第16回	「循環型社会に向けて」～岐路に立つ日本の廃棄物対策～	産廃アウトローの構造と優良業者選定 ～不法投棄、リサイクル偽装、不正輸出の実態と産廃業界優良化の方法～ 石渡 正佳 氏 (千葉県印旛地域センター 用地課長) 中部電力の環境への取り組み ～エネルギー供給と廃棄物～ 内藤 修久 氏 (中部電力株式会社 環境立地本部 環境部 副長)
2007	第17回	「みずから学ぶ、地球の危機」～負の遺産をのこさないために～	水の争奪戦がはじまる 中村 靖彦 氏 (東京農業大学 客員教授) 環境朗読劇「月のダンス」～21世紀末に迷い込んだ少女の、水をめぐる物語～ 地球環境保護NPOレインボー

2008	第18回	「地球温暖化」～世界規模で考え、名古屋から行動する～	エコマネーから考える、地球にやさしい名古屋のしくみづくり 谷口 庄一 氏 (社団法人東三河地域研究センター 主任研究員) 「不都合な真実」に向き合う ～正解の動向と日本への期待～ 枝廣 淳子 氏 (環境ジャーナリスト、有限会社イズ 代表)	
2009	第19回	「青いダイヤ」～水の可能性と私たちの未来～	めぐる水と世界 沖 大幹 氏 (東京大学 生産技術研究所) 水が輝く日本の技術 吉村 和就 氏 (グローバルウォータ・ジャパン 代表)	座談会での提言 夢の対談が、エステムで実現！ 会場から寄せられた質問を元に、講師陣による座談会を実施。沖氏がアカデミックな立場から、吉村氏は経済的なクロレミック(吉村氏の造語)の立場からお話いただきました。 一、安全な水へのアクセスは他から保証されるものでなく、不断的努力によって得られるものである。 一、安全な水へのアクセスは如何にすればそれが守られるか、地球人全てが、常に考えなければならない。
2010	第20回	水がつながる生命～私たちの環境と海からの恩恵～	私たちの暮らしと生物多様性 涌井 雅之(史郎) 氏 (中部大学 客員教授) 伊勢湾の恩恵と未来 畑井 育夫 氏 (山川海ネットワーク新雲出川物語推進委員会 委員長)	
2011	第21回	人工と自然のハーモニー～これからの環境の話をしよう～	総合的な環境像とは 鬼頭 秀一 氏 (東京大学新領域創成科学研究科 教授) 地球のディテール 三分一 博志 氏 (建築家)	
2012	第22回	未来を創る力～あなたのそばにもエネルギー～	地域のための地域のエネルギー 新妻 弘明 氏 (東北大学 名誉教授) 地域再生と自然エネルギー 藻谷 浩介 氏 (㈱日本総合研究所 調査部 主席研究員)	
2013	第23回	水×きれい=利益～水処理ビジネスを変える～	環境ビジネスの現状と未来 ～リアルな成功・失敗事例から学ぶ～ 菊池 功 氏 (船井総合研究所) 汚水に眠る資源 ～下水処理場におけるパラダイムシフト～ 大門 裕之 氏 (豊橋技術科学大学)	
2014	第24回	豪雨災害～水と森の国から異常警報発令～	私たちは水災害とどのように向き合うか 鷲見 哲也 氏 (大同大学 准教授) 間違いだらけの森と水の世界 田中 淳夫 氏 (森林ジャーナリスト)	
2015	第25回	地球の水が危ない！？～知っているようで知らない世界の水事情～	水リスクの進行と持続可能な流域づくり 橋本 淳司 氏 (アクアスフィア代表) 持続可能な水利用の実現に向けて (パネルディスカッション) 窪田 順平 氏、田中 直 氏、船水 尚行 氏	
2016	第26回	ニッポン里山新時代	海外から見た日本の“SATOYAMA” あん・まくどなど 氏 (上智大学大学院地球環境学研究科 教授) 新しい時代の里山づくり (パネルディスカッション) 澁沢 寿一 氏、中村 浩二 氏、羽田 知弘 氏	
2017	第27回	捨てられる食品を救え！～もったいない日本の食事情～	食品ロスの実態 井出 留美 氏 (株式会社 office3.11 代表取締役) 食品ロスを減らすために私たちにできること (パネルディスカッション) 上岡 美保 氏 (東京農業大学 教授) 百瀬 則子 氏 (ユニー株式会社 上席執行役員 CSR 部長) 山田 康弘 氏 (NPO 法人セカンドハーベスト名古屋 理事長) コーディネーター：井出 留美 氏	事後勉強会でサルベージパーティを開催！ 食べごろギリギリの野菜、買すぎた加工品、眠っている缶詰…『持て余している食材』を持ち寄り、シェフの知恵と技術を借りて調理する、サルベージパーティを開催しました。当日までどんな食材が集まるか分からず、期待と不安でいっぱいでしたが、始めてみると、あら不思議。美味しいアイデア料理が次々と生まれました。また、参加者同士が料理を通じて交流を深めていく姿は、食の醍醐味と素晴らしさを教えてくれました。
2018	第28回	「これからの健康の話をしよう。～私たちと環境のつながり～	世界の環境と健康のつながり 関野 吉晴 氏 (探検家、武蔵野美術大学教授 (文化人類学・人類史)) これからの環境と健康のつながり (トークセッション) 関野 吉晴 氏、西内 義雄 氏 (医療・保険ジャーナリスト)	
2019	第29回	マイクロプラスチック汚染～潜む脅威～ 私か明日のためにできること	プラスチックの恩恵と環境への影響 磯辺 篤彦 氏 (九州大学 応用力学研究所 教授) 持続可能な社会のために私たちができること 夫馬 賢治 氏 (㈱ニューラル 代表取締役 CEO)	



〈 環境・品質方針の周知徹底と情報公開 〉

環境イベントの企画・運営

環境フォーラムの開催

29回目となる2019年のテーマは『マイクロプラスチック』です。ペットボトル、ストロー、レジ袋…様々な形で、私たちはプラスチックの恩恵を受けています。本格的な製造が始まってから、まだ60年程だということに、私たちの周りは驚くほどプラスチック製品に溢れています。軽くて扱いやすく、安価なプラスチックは本当に便利なものですが、今、そのプラスチックが微小なプラスチック粒子であるマイクロプラスチックとなり、海洋環境を汚染し、私たちの健康に影響することが懸念されています。

まずは、「知る」ことから。そしてその次は、それぞれの位置でできることから「アクション」を。SDGsで目標とする持続可能な社会を作っていくために、私たちができることについて考えました。

事例発表 「水処理と新しい情報技術」 加納 譲治 氏 (EM推進部)

エステムの仕事を「水処理のお医者さん」になぞらえ、事例紹介を行いました。SACRA（クラウドを使った弊社の遠方監視管理サービス）導入によって点検（往診）に行かなくても処理（容態）の悪化傾向を早期発見・早期対応できること。また、安定した状態（健康な状態）をより確実に維持できるようになることや、それによってコスト（治療費）削減できた事例を紹介しました。

第1部 「プラスチックの恩恵と環境への影響」

磯辺 篤彦 氏 (九州大学 応用力学研究所 教授)

海洋物理学、マイクロプラスチックの専門家として名高い磯辺篤彦氏をお招きいたしました。実際の海洋フィールドワークから見えるプラスチック問題の現状について、「今、海で何が起きているのか?」、貴重な研究結果を惜しみなく示されながらご講演くださいました。

マイクロプラスチックの発生過程や現状、生態系に及ぼすとされる悪影響等について、一つ一つ、具体的なデータを示しながら解説してくださいました。プラスチックゴミの60～70%は海水よりも比重が軽く、容易に遠距離を移動すること、洗剤に混ざるためにもともとマイクロプラスチックとして作られたマイクロビーズの存在など、考えが深くなるばかりでした。ゴミを模した仮想粒子をコンピューター上に再現した海に放し、発生場所を推定する実験は圧巻でした。



第2部 「持続可能な社会の為に私たちができること」

夫馬 賢治 氏 (株ニューラル 代表取締役 CEO)

株式会社ニューラルの社長として、持続可能な経営やESG投資に関するアドバイスをおこなわれている夫馬賢治氏にご講演いただきました。1988年から拡大を続ける太平洋ゴミベルト（面積はなんと日本の4倍）という大きな視点から、民間企業や政府の取組、プラスチック削減に向けた民間企業や各自治体の取組まで、分別後のプラスチックの使い道、個人・事業者が環境のためにできることを話してくださいました。

事後勉強会 『プラスチックはどうなるの?～リサイクル工場見学～』

リサイクル事業を行っているフジ加工株式会社様の工場見学をさせていただきました。

環境シゴト博の開催

環境シゴト博は「環境を守る仕事」を事業とする企業だけが出展する合同企業説明会です。このような環境業界に特化した説明会は東海地域では他にありません。

エステムをはじめとした、環境分野の第一線で働く仕事は、日常生活ではなかなか一般ユーザーのお客様の目に触れる機会がありません。365日24時間、水は世界中の誰しも必要な貴重な資源ですが、一度使われた汚れた水を誰が、どこで、どうやって綺麗にしているのか?これから使う綺麗な水は誰が、どのように、管理しているのか?ということはあまり身近に感じられていないようです。

そのため、「自分の手で地球環境を守りたい」「専攻する環境分野の知識を活かしたい」。そのような志を持った学生と巡り合う場がなかなかありませんでした。

そのような状況のなか、「無いの?だったら作ればいいじゃん!」というエステムマインドで企画されたのが、環境シゴト博です。エステムは株ジオコス様と「環境シゴト博実行委員会」を結成。塩崎社長自らが営業となって、同じ志を持った企業に声をかけ、実現しました。



2019年2月20日に開催された第一回では、エステムをはじめ、水処理、土壌処理、廃棄物処理事業などに携わる9社が出展。会場では、現場社員に仕事内容を直接聞ける企業ブースのほか、環境企業研究の参考になるオープニングセミナー、SDGsについて学べるカードゲームなども行いました。当日は応用生物学部、理工学部、農学部を中心に、文系学科の学生まで、68名の方が来場してくださいました。

第一回
2019年2月20日 (9社参加)

第二回
2019年7月15日 (3社参加)

第三回
2020年2月20日 (11社参加)



参加した学生の声

- ① 環境に関する仕事というだけでも多くの業種があるのを知ることができた。
- ② 環境関係の職場が具体的にどんな会社があるのか何をやっているのかを知れて良かった。
- ③ 環境に関わる企業にこれだけ多くの話を伺えたことは貴重な機会でした。どの企業も環境に対するアプローチは違いますが、これからの地球には環境事業は大切になると思います。私もそれらに関わる仕事に就きたいと思います。

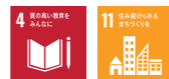
参加した企業の声

- ① 環境業界に対する関心が高い学生が他のイベントよりも圧倒的に多く、説明に対する反応も非常に良かった。
- ② 「環境」をターゲットにしている学生と沢山話す事が出来て良かったです。こんなにも話を聞いてくれるセミナーはなかなか無いので、「興味がある学生」に出会えた事もうれしく思います。

環境シゴト博はこれからも継続的に開催予定です。
エステムグループは、これからも、新しい仕事に進んでチャレンジしていきます!



特集 エステムグループ新入社員研修プログラム

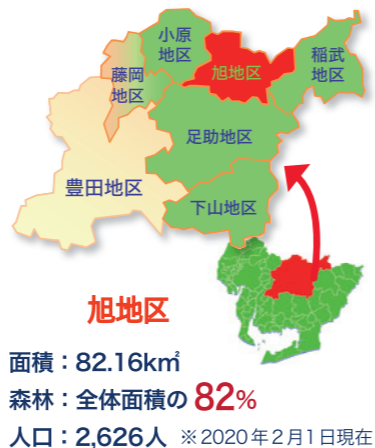


防災イベント ～つくラッセルでまもラッセル～

2019年度新入社員研修の一環として、豊田市おいでん・さんそんセンター様のご協力のもと、豊田市旭地区にて、社員とご家族向けの防災イベントを開催しました。

新入社員のうちはお客様と直接接する機会は多くありません。これから実際にお客様に接し、様々な提案をしていく前に、旭地区の皆様や、社員とご家族とのやり取りを通し、「お客様の立場になって考え行動すること」、「チームで仕事をする事」、そして「仕事を進める上で大事なこと」を、実践を通して学ぶ機会と致しました。

新入社員たちに与えられた準備期間は7月～9月の3ヶ月間。しかも、全国バラバラに配属された新入社員たちが集まることができるのはイベント前日と当日のみ。新入社員として日々の業務を行いながら、社内LANや電話、LINE等を駆使して準備を進める必要がありました。彼らが設定したテーマは「誰かに言いたくなる防災知識を学ぶ」。彼らの奮闘をご報告いたします。



当日までの流れ

目標、テーマ設定。
協力団体様と顔合わせ、各グループ役割分担、計画作成

協力団体様
☆(株) M-easy 様
☆つくば元気クラブほか、地元農家 様
☆とよた防災まちづくりプロジェクト 様

【全体の進捗管理】
統括班

【4つのメインプログラム】

- 防災〇×クイズ班**
正しい防災知識を学んでもらう
君は命を守れるか！防災〇×クイズ
- 防災グッズ班**
災害時に何が必要かを考え、体験してもらおう
世界一受けたい防災グッズ講座
～見て、触れて、考えよう～
- 手作り防災グッズ班**
身近な物でできることを考えてもらおう
ペットボトルを使ったろ過器の作成
- 非常食班**
非常食への関心を深めてもらおう
食べて学ぶ非常食

【イベントの鍵を握る3つのグループ】

- 広報班**
集客、お客様管理
広報チラシの作成、集客呼びかけ、申込フォームの作成、管理
- イベント統括班**
イベント当日の人員配置と役割分担をする
イベント本部、総合司会、当日パンフレットの作成
- 食事班**
旭地区の美味しいものを食べてもらおう
五平餅、流しそうめん、茄子の炒め物、サラダ、フルーツポンチの材料手配と調理

3ヶ月
フォロー研修

3ヶ月間
各グループが連携を取りながら準備を進める
(総務部への報告、協力者とのやり取り、備品の発注、社内広報、当日のスケジュールリング、緊急連絡網の作成 etc...)

6ヶ月
フォロー研修
(前日)
講師を通して
喝!

「目的・目標を意識しないまま手近な成果に向かっていないか？」
「自分が任されたことはできてる、自分のチームが任されていることはできているから満足、というレベルのチーム活動になってしまっていないか？」
「自分たちの満足ではなく、『お客様』の満足を考えているか？誰のために仕事をしているのか？」

奮起!

「足を運んでくださるお客様のために、2019年度新入社員、一つになって、最後までやろう！」

イベント当日

時間的、コスト的にも
実現不可能と計画変更する班もあり。

誰かに言いたくなる防災知識を学ぼう



参加者の声

広報の子たちが最後まで、何度も何度も呼びかけていたのが良かった。「確かにこうやって何度もやらないと人間は忘れちゃうな」と自分も学んだ。最初はどうかと思っていたけど、あれで行こうと思った。

広報班



子供が食べ慣れていないといけないという認識が無かったので、ハッとした。

非常食班



非常食を試食する機会はなかなか無いので良かった。プレゼンもよかった。



イベント統括班

防災〇×クイズ班



実際にろ過器を作って水が綺麗になるのを見られてよかった。

手作り防災グッズ班



防災グッズ班

エンタメ性が高く楽しかった。早速注文しました。

リュックに詰めるほど重くなって大変だと体感できた。

Tシャツ担架を実際に見られて良かった

ツナ缶がランプになる知識がためになりました

なす、本当においしかった！流しそうめん子供たちが楽しそうでした！



食事班

みんなで拍手したり、仲間がやることを盛り上げたり、新入社員の雰囲気が凄く良かった。

防災グッズの準備など、家族で話し合ったりしてみたいと思いました。防災意識が高まりました。

イベント当日は48名の方がご参加くださいました。参加者アンケートでは「イベントで得た防災知識を周りの人に教えたいか？」という質問に対し、「教えたい」との回答が84.8%。目標の70%を大きく上回りました。

学んだこと(新入社員発表より)

1. 目的を明確にすること
2. PDCAは自己の改善にもつながる
3. 内容の大小に関わらず、報連相は行うことが大事
4. チームですることの難しさ
5. 状況に合わせて臨機応変な対応をすることの大切さ

学んだことを日々の業務に落とし込み

1. 目的を理解してお客様が求めることを行う
2. 報告は結果だけでなく経過も伝える
3. 互いを尊重し、意見の出しやすい環境作り
4. PDCAを意識して、計画的に業務を行う
5. 役割を分担し、協力して業務を行う

研修を通して、「目的を意識して仕事をする事」「報連相の役割」「計画の重要性」「チームで仕事をする事の意味」を学びました。また、「お客様が満足する仕事」をすることの難しさを体験しました。一人一人の経験が、今後の仕事でも活かされることを期待しています。



水道 GLP 取得で新たな分野へ

エステムは 2019 年 9 月 17 日に水道水質検査優良試験所規範 (Good Laboratory Practice. 以下、水道 GLP) 認定を取得しました。認定範囲は水道水質基準項目 (51 項目) で、水道水、浄水、原水です。認定対象組織は調査分析センターです。

1 水道 GLP とは

GLP とは食品衛生分野や医薬品分野でも導入されているもので、検査で得られたデータが正確なものであることを、お客様に対して保証するシステムです。今回、エステムが取得した水道 GLP とは、水道事業者や水質検査機関が行う水道水質検査について特化したもので、検査の精度と信頼性の保証を確保するための認定制度です。

この水道 GLP 認定を受けるためには、公益社団法人日本水道協会が実施する厳しい審査を合格しなければなりません。

水道 GLP 認定を取得するには、技術能力だけでなく、品質管理システムの確立が必要です。検査方法、水道 GLP 要員の教育訓練、分析環境の確認、不適合業務の管理方法、内部監査、品質管理システムの見直しなど、たくさんの内容が盛り込まれています。需要者が直接口にする水の安全性を確認することで、高い信頼性の保証が求められています。

2 水道 GLP 導入の目的と概要について

エステムは『水を中心とする環境文化と安全で快適な自然環境の創造を通じて社会に貢献します』という経営理念のもと、上下水道施設や民間の工場排水などの維持管理、遠方監視、設計施工、修繕、水質分析、その他環境施設の運転管理等、幅広く業務を展開してきました。近年では、2018 年 3 月に水道法 20 条登録水質検査機関にも登録し、汚れた水を綺麗にするだけでなく、水道水や工業用水など、それぞれの用途に合った綺麗で快適な水を供給することも行なっています。

今回、水道 GLP の導入にあたって、得られる結果が常に正しいデータであるように、手順書整備・機器整備を行いました。日々の検査で精度管理を行うことになったため、検査結果がより信頼性の高いものとしてお客様に提供でき、安心していただけるようになりました。



運営管理者 五十君取締役より「今後のビジョン」



水道 GLP の取得の過程で、社員のレベルも向上し、より自信を持って業務を行えるようになりました。当社は施設のオペレーション&メンテナンスがメイン事業ですが、認定取得により信頼性の向上を図れたことから、受注を拡大させて水質検査・分析業務を事業の柱に育てていきたいと思っています。そして、分析だけにとどまらず、コンサルティングやものづくりなど、更に分野を広げ、全てをやっていただけるようにしていきたいです。

水道 GLP という看板だけが立派でも意味がありません。全てのシステムはそれを通して自分たちを磨き、もっと良いものをお客様に提供していくことが目的です。継続することで更にお客様に対して信頼していただけるようにしていきたいです。

ホームページ

エステムでは事業内容、ボランティア活動などを紹介した「会社 HP」と、「採用サイト」を運用しています。

会社 HP では毎月社員が交代で『今月のコラム』を連載しているほか、現場のトラブル解決事例や法令の改正情報を掲載しています。

採用サイト (<https://stem-saiyou.jp/>) は 2019 年に新しくリニューアルいたしました。ぜひご利用ください。



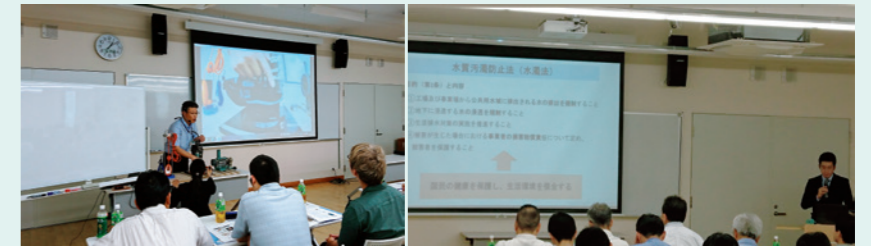
環境・コミュニケーションレポートの作成

社会的な説明責任の観点から、年 1 回、環境保全の取り組みや環境負荷低減に関するレポートを作成しています。バックナンバーはエステム HP の「環境活動」からダウンロードできます。

排水処理講座を開催しています



担当：環境ソリューション部
ソリューション営業課
新任者から管理者まで、教育訓練に最適なプログラムを 4 種類ご用意しています。



1. 基礎コース (名古屋会場)

排水処理に係る法律と技術の基礎が学べます。排水処理の各工程の役割や、よく使用する用語の意味の解説が中心で、新任者の教育としてお使いいただけるだけでなく、基礎の再確認として排水処理に携わる方や管理部門の方にもお勧めです。



2. 応用コース (名古屋会場) ※製造業の方限定

主に排水処理設備ご担当者様にピッタリな内容です。排水基準の確認方法や特定施設届出時の留意点、改造工事など設備投資で着目するポイント (散気装置や脱水機の種類と特徴、改善事例など) を解説します。お客様によるジャーテストの実技もご用意しており、適切な薬品注入量を体感的に学べます。

3. 改善事例コース (名古屋会場)

排水管理のリーダーの方におすすめのコースです。法規制の内容を把握しつつ今後の改正動向を読み解くポイントや、放流水質安定・コスト削減に繋がる点検データの活用方法について実例を挙げてご紹介します。

4. 大阪開催コース (大阪会場)

基礎コースと改善事例コースの内容を組み合わせた講座を大阪で開催します。名古屋までは遠いなどなかなか都合がつかないお客様は、ぜひこの機会にご一考ください。



講座を始めて約 10 年、今では年間 200 名を超えるお客様が受講され、お喜びの声をいただいております。これからもよりご満足いただける講座をお届けできるよう、スタッフ一同精進してまいります。

各コースの詳細案内は、開催日の約 2 カ月前に当社ホームページで公開いたします。お申し込みは弊社ホームページより随時受付中です。